

八十四年ほど前、花輪駅から小中大滝への道々の記 その1

〔岩澤正作氏著『黒川峡中小中川溪谷探勝記』より〕

講師 藤井 実さん（東町花輪）

花輪駅小中橋間

本稿は、岩澤正作氏が自ら主幹する機関誌『毛野』に昭和十四年に発表した『黒川峡中小中川峡谷探勝記』を参考にしたものです。

八十四年前、花輪駅から小中大滝への道々の記です。往時を知ることでできる貴重な著です。

氏は、『黒川峡と澤入塔』の

「叙文にかえて」の文中に、

東西みんなみにきた

黒川の史蹟名勝

よんできかせよ

と記しています。

本稿は、この貴重な書を、以下現代語にして、多くの人の目にとまっていただけることを期して編集したものです。

紙面の関係から、「花輪駅小中」から始めます。

左手崖上には中野石器時代の

遺跡がある。右手前方に架した

東瀬橋は、稗ヶ瀬の充字らしい。

附近に昔「ヒエ」という女人

が、入水し薬師如来の石像にな

った稗か淵。

ヒエ女が水に流されて浮かび

あがったので「稗ヶ瀬」という

地名になったことなどを伝えて

いる。

如来像は「淵の上薬師」とい

い、今なお里の人々に崇敬され

ている。

寺山を右に見て歩き行くと、

「字三ヶ郷」に入る。三ヶ郷は

犬目・平沢・前原の三村を併せ

た地名だ。

先年新道開鑿の結果道下とな

ったが、老杉が並び立ち神社の

森には、「村社御霊社」がまつ

られている。

ここには、小中の村社鳥海神

社との神戦伝説を伝えている。

小中では「ウリ」と「モロコ

シ」を禁忌作物としていたこと

など話しながら行くと、ほどな

く小中橋に着いた。時に十時五

分（因に東武自動車小中停留所）

小中橋附近

小中鉾泉は大字小中学「ハゲ

タ」にある。小中橋を左折して

約二二〇メートル。

泉質は無色透明の単純泉であ

るが、ラジウム含量が多

く、胃腸痛・神経痛・リユーマ

チ・疝氣・寸白等に効能がある

と云う。

鑛泉旅館東陽館は、小中川左

岸の緑の木々の中に在り山のす

がすがしい空気が溢れ出るよう

な景色を一人占めすることがで

きるような所だ。

鉾泉の東崖上を大平と呼び、

小中石器時代の遺蹟が出土して

いる。

その東に接して、村社鳥海神

社を奉祀し阿倍宗任の霊を祀る

と云う。

神社の東には福聚山大蒼院ふくじゅさんだいそういんがあり、境内には系桜の老樹及び霧島の古株がある。

小中橋・オツケ橋間

小中川こなかがわの左岸に沿って左脚下に小中ラヂウム泉湯元東陽館をみて進むと、右に粘板岩の露出がある。

間もなく阿入橋あにゅうばしを渡り「学腰越」に入る。

畑がいくらか広がり一小部落がある。畑ではコンニャクを栽培している。

私は大正の初めに居を大間々に移した当時、黒川峡中にコンニャク栽培を薦めたが、殆んど顧みられなかった。

それから約三十何年、その栽培が普及しているの見て、万事が人意より天時にあることを感じた。

部落の北側対岸に「字阿久沢」

の地字がある。そこは阿久沢氏出自の地なのだろうか。

阿久沢氏は、初め「悪澤」と書き、後に愛久沢・阿久沢と改めたらしい。阿久沢系図に播州浪人とあるが、松島氏と共に阿安倍系と考えられる。

「学腰越」の部落のはずれから山すそが迫り、場所によっては岩石が露出し崖となつていゝ。岩はおおむね珪石けいせきで、美しい褶曲を示す。

阿入橋より約十五六分で久々戸川くぐどに架した久々戸橋を渡れば、「字袖丸そでまる」に入る。右に岐路があり川に沿うて上れば「字萩平はぎたいち」に至る。

袖丸は萩平からの山の尾根が途切れた南端にできた小部落で、地形の特徴をよく表している地名である。

この途切れた尾根の南端の袖丸の北に「字暮坪くれつば」の小部落がある。

右は山すそが直に道に接し、左下には小段丘があり、杉林にはちようどよい場所なつてゐる。あたりを里人に問うと、大河原と教えられる。

杉林の木影を進むこと三四分。溪流に架かった一橋を渡り、そして尚数分進むと、右側の切り立った崖から滝が流れ落ちてゐる。

不動沢は小中川の支流であり、崖上からは三段となつてつて流れ落ちてくる。

里人に滝名を尋ねてみたが、無名ということで三楷滝と仮に名付けた。

谷底まで落下すること七、八メートルほどであるが、これを見おろし全てを眺めることができないのが残念だ。

滝の傍には地藏尊像と庚申塔を安置されている。人家が数戸あり「字柏谷」の部落である。

三楷滝より約五分にして「オ

ツケ橋」そばの坂本氏方に着いた。時に正十一時。

オツケ橋は本沢即ち小中川本流と東沢の合流点の下部に架かり、附近に人家が数軒ある。

橋の下流数間先きは断崖となり、川は高さ二メートルほどの小さな滝となる。

兩岸には荒々しい岩が目立ち奇勝を呈している。

坂本家は、追付橋の左袂に近くであり、道のふち際に出ると、追付橋の下流河床の全体を見おろすことができる。

当日対岸の草むらにヤブカシザウ一株が咲きほこつていた。

また、橋の左岸右袂にボウシバナ(コクワ)が清楚な花をつけているなど殊に風情があつた。

次回、眺めのよさにユックリした一向は、大滝を目指し歩を進めます。